

第30回マネジメントセミナー（平成24年12月5日） 於：メルパルク横浜

## 『日本のエネルギーのあり方』 ～ 産業界としてどう関わって行くか ～

講師：柏木孝夫氏（東京工業大学 特命教授）

今回は、国の総合資源エネルギー調査会の委員などもされ、エネルギー問題の第一人者である柏木教授を講師にお招きし、各種再生可能エネルギーの課題と将来展望を踏まえて産業界としての関わり方についてお話いただいた。

開会にあたり、小俣会長から、「本日のテーマは、とても旬であり、また、国の存立を脅かすような課題になりつつあるテーマでもある。先生のご提言は、冷静に分析された実態に基づいた建設的かつ具体的なもので、多くの自治体や企業で採用されている。協会としても、京浜工業地帯の未利用の熱エネルギーの活用について考えて行きたいので、そのヒントが得られるのでは、と楽しみにしている」との挨拶があった。

### 【講演概要】

■3.11以降、日本に対するLNG価格が暴騰し、一時期は米国の9倍になった。最近は少しさがってきたが、これでは国際競争力を保てる訳がない。基本問題委員会の議論では、「選択肢を複数提示することで、可能性も複数にしておく」ということだったが、数字だけが独り歩きしてしまい、それが対日価格高騰の大きな原因と見ている。

■我々は、出来ることから取り組まなければならない。まずは「節電・省エネ」。これは、個々の効

き目は小さいが、それでも基本中の基本。ピークを抑制するという点では、積み上げれば大きい。次に「再生可能エネルギー」の活用。ただし、これには光と影があるということ忘れては

いけない。ベース電源になりうる安定性では「地熱」と「中小水力」だが、パワー不足は否めない。3つ目は「コージェネ」で化石燃料の高度利用を促進する。そして最後は「国際インフラの整備」だが、これは外交問題も絡むので、ややセンシティブな課題になる。

■太陽光や風力といった不安定な発電を前提にして如何に安定性を保つかとなると、蓄電池の技術開発やICTなどを活用したスマート化の促進がポイントとなる。

■京浜工業地帯の未利用熱エネルギーの活用を考えられているようだが、将来的な送配電システムの改革などを踏まえれば、大きな効果が期待できる。熱需要との組み合わせも含めれば、節電・省エネ効果も相当なものになるのではないか。ぜひ、皆さんで協力して、取り組んでいただきたい。

・講演会後の懇親会でも、柏木先生を囲んだエネルギー談義が盛んに行われた。（文責：事務局）

